

部活動を本気で頑張ってきた3年生へ

地区総体、県総体、全国総体、全日本吹奏楽コンクールなど様々な大会や行事の中止が決定された。これらの大会を目指して部活動を頑張ってきた3年生にとって、この中止はどれほど辛く悲しいことだろうか。

何十年も前のことになるが、私も全国大会出場を目指して毎日の高校生活を送っていた身だから、もしも当時の私が、今君たちが直面している状況に置かれたなら、悔しくて悲しくてどうしようもなくて、おそらく何日も寝込んでしまったに違いない。それほどショックを受けることだと思う。

そんな君たちに向けられる慰めの言葉は見つからない。だから、高校を終えてから何十年もの人生を歩んできた今の私の視点で、当時の自分に送るつもりで、高校3年生の君にアドバイスを送る。

『部活動の本気で頑張ってきた君へ』

半年前には0.001%たりとも想像しえなかったことが起きた。

自分が目指してきた大会の中止だ。

大会に出場して負けたのならば、自分の力のなさを、不甲斐なさを責めればいい。でも大会がないのだから、それすらできない。

もう終わったことなのに、

あの時、あそこで、ああしていれば…とか、

こうやっていれば…とか、

心の中の映像を繰り返しながら、

何度もため息をつくことさえできない。

試合に臨む緊張感、うずうずする待望感さえも感じることはできない。

大会そのものが開かれないのだから。

今は、悔しくて悔しくて、先のことなど何一つ考えられないに違いない。

でもそれは、君が小さいときから夢中になって、

いかに本気で頑張ってきたかの証だよ。

大会に出られなくて、勝負もできなくて、悔しくて辛いのは

君が本気でチャレンジしてきた証だから、涙が枯れるまで泣いていいんだよ。

今まで歯を食いしばって頑張ってきた努力は、決して無駄ではない。
自分を奮い立たせてきた もう一人の自分、
潰れそうになったときに励ましてくれた もう一人の自分が、
これまでの努力と本気の自分を知っているから。

でも・・・、
君が試合でシュートをミスしたときのように、
君が試合で絶好球を打ち損じたときのように、
過ぎたことや決定したことを変えることはできない。
変えられるのは、これからのことだけだ。
次のチャンスをものにできるかどうかだ。
次のチャンスは必ずやってくる。
私も高校生のときは、すべてが終わったような気がしていた。
でも、案外、人生は長いんだよ。

もし、君が今の気持ちを振り払える時がきて、
もし、君が新たな目標を見つけることができ、
もし、君が「もう1回やってみっか～！」って言えたなら、
必ずチャンスは訪れる。
君の力を発揮できるチャンス、
君のこれまでの努力、一途さ、熱意が無駄にならないチャンスが
必ずやってくる。

気持ちが落ち着いたら、
もう一度、これからのことを考えてみよう。
新たな目標を見つけて、
それに本気で立ち向かう自分を想像してみよう。
これまでもできたんだから、
これからも絶対にできる。

頑張ってきた分だけ いっぱい泣いて、
いっぱい泣いた分だけ、
新たな目標に笑顔で突き進もう！

2020. 5. 12
校長 遠藤 淳一